

瀬戸内国際芸術祭2025の 進捗状況

さぬき市内の会場は「志度・津田エリア」で「歴史や文化・自然などをテーマに取り組む」ことが発表されました。



会期は夏季、8月1日～8月31日。これまでの瀬戸芸同様に地域文化の掘り起こしを積極的に進め、将来を担う子供たちが豊かな心を育めるように学校教育との連携を深めるとのことです。さらに今回はベトナムと連携したプロジェクトを実施し、ベトナムとの定期航路開設に向けた交流の広がりが期待されます。《10月ごろに企画発表会、11月ごろに学校連携事業を予定》



経済委員会

県議会には常任委員会が4つ（総務、環境建設、文教厚生、経済）あり、各議員はその中の一つに1年間所属し、その常任委員会の分野についての議案や来年度予算について審議します。令和5年度は経済委員会に所属しています。県の商工労働部、交流推進部、農政水産部等に関する事項を担当しています。

京阪神への玄関口としての 東讃地域の重要性について

過疎化高齢化が進む東讃地域において、さぬき市では徳島文理大学の高松への移転や県立高校の統合による地域経済への影響が大きな課題になっています。県立高校の統合については、本会議の一般質問で教育長に質問してまいりましたが、経済委員会では、寺嶋商工労働部長に地元経済への影響という視点からの見解を問いました。

9月の委員会で「県立高校統合による地域経済への影響や、地元の活力低下の懸念

をどう捉えているか」質問したところ、「活性化のためには、東讃地域の地の利を生かすこと。インターチェンジが6つあることと、京阪神から最も早く到着することができることから、物流拠点としての価値が高い地域である。」との見解でした。

令和6年度の予算審議を行う2月議会の委員会で、再度、「地の利」がある東讃地域の活性化について質問すると、「四国全体の玄関口として重要な物流拠点となるので、企業立地フェアなど、市とも連携して積極的に誘致のPRをしてゆく」とのことと、今後が期待されます。

また、大阪万博を契機とした誘客事業における東讃地域について質問したところ「大手旅行社のツアー商談や関西方面への情報発信において、東讃でのアウトドア体験、大串半島や四国遍路上がり三カ寺などのPRをしている」とのこと。四国の玄関口であっても通過点にならないように、東讃での立ち寄りを誘導する取り組みを再度要望しました。



東讃地域でも観光客動態調査をスタート!

瀬戸芸2025の会場が東讃地域に拡大することを受けて、観光客動態調査を、これまで行われていなかった東讃地域でも行うように9月の委員会で要望いたしました。「市町と意見交換して調査地点を拡大する」との回答を得、更に2月の委員会答弁



では「さぬき市では琴林公園での調査希望があり、4月に再度各市町に確認して5月に発表、次回の調査から追加する」とのことです。客観的数字をもとに、一層の誘客に向けて戦略をたてることが期待されます。